

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
223	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Parent-child divergence in the development of alcohol use norms from middle childhood into middle adolescence. 幼児期半ばから青春前半ばにおける飲酒の発達と両親と子供の相違について	
執筆者	
Prins JC, Donovan JE, Molina BS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs. 2011 May;72(3):438-43.	
キーワード	
飲酒、幼児期、青春期、両親、成長モデリング	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 青春期および大学における飲酒に関する使用基準は重要であるにもかかわらず、幼児期から青春期にかけての研究はほとんどなかった。本研究では 8 歳から 16 歳における少しの飲酒や、大量飲酒や、飲酒しない親と子供の行動と、親と子供の間の成長の基盤の違いについて調査した。	
<b>方法：</b> データは、最初に継続的に実施中の cohort-sequential longitudinal study (シーケンシャルコホート研究) から 8 歳から 16 歳に年齢範囲をカバーする 10 回以上の検査ができた 452 の家族から収集された。子供には、インタビューを 6 ヶ月おきに両親は、年に一度実施した。潜在的な成長モデリングは、母、父と子供のデータで実行された。	
<b>結果：</b> 少しの飲酒をする子供の行動を親が承認している事が幼児期で増加したが、幼児の飲酒または大量飲酒を容認する事への増加が 16 歳を超えていない事が、無条件の潜在的な成長曲線モデリングから分かった。対照的に、少しの飲酒と飲酒、大量飲酒に関して子供たちの容認の増加が重要であった。11.5 歳または 12 歳に移行する成長モデルの区分が子供と青春期のアルコール使用基準の発達に最も影響する事がわかった。	
<b>結論：</b> 幼児期半ばから青春期の半ばにおいて、両親の子供の飲酒に関する容認と彼らの年齢による飲酒に関する容認が、相違を増加させることが分かった。	